

華嚴經と申す經まします。龍宮城には三本あり。上本は十三世界微塵數の品、中本は四十九萬八千八百偈一千二百品、下本は十萬偈四十八品。此三本の外に震旦日本には僅に八十卷・六十卷・四十卷等あり。阿含小乘經・方等般若の諸大乘經等。大日經は梵本には阿嚩囉訶佉<sup>あはらかきや</sup>と<sup>こんぼ</sup>の五字計<sup>ごじけい</sup>をもて三千五百の偈をむすべり。況や餘の諸尊の種子尊形三摩耶其數をしらず。而に漢土には但纔に六卷七卷也。涅槃經は雙林最後の說、漢土には但四十卷なり。是も梵本多<sup>ッ</sup>之。此等の諸經は皆釋迦如來の所說の法華經の眷屬の修多羅也。此外過去の七佛千佛・遠遠劫の諸佛の所說、現在十方の諸佛の諸經も皆法華經の經の一字の眷屬也。されば藥王品に佛宿王華菩薩に對して云、譬如一切川流江河諸水之中海爲第一<sup>ナルカ</sup>、衆山之中須彌山爲第一<sup>コレ</sup>、衆星之中月天子最爲第一<sup>コレ</sup>等云云。妙樂大師釋云、已今當說最爲第一等云云。此經の一字の中に十方法界の一切經を納たり。譬ば如意寶珠の一切の財を納め、虛空の萬象を含めるが如し。經の一字一代に勝る。故に妙法蓮華の四字も又八萬法藏に超過するなり。妙者<sup>ト</sup>法華經云、開方便門<sup>キ</sup>示眞實相<sup>ス</sup>云云。章安大師釋云、發祕密之奧藏<sup>ツ</sup>稱之爲妙<sup>ト</sup>云云。妙樂大師此文を受て云、發者開也等云云。妙と申す事は開と云事也。世間に財を積める藏に鑰

①の五<sup>2</sup>字 ② 沼津 妙覺寺藏 [もて]一③ ④を十(もて)⑤